第２回 幼保小連絡会の

まとめ

＝１７小学校区における話し合い＝

日時：令和２年(2020 年)

１月 16・20・21・23・24・27・28 日実施

会場：17 会場…小学校･認定こども園

幼稚園･保育所(園)

令和元年度（2019年度）豊中市幼保小連絡協議会 第2回連絡会実施一覧

No.1

小学校区	螢池 刀根山	桜井谷 桜井谷東 箕面自由学園	克明 箕輪	大池 少路 上野	野畑 北緑丘	東豊中 東豊台 東泉丘	南丘 新田 新田南 西丘	東丘 北丘
開催日時	1月20日(月) 15:00～16:15	1月20日(月) 15:00～16:15	1月20日(月) 15:00～16:15	1月20日(月) 15:00～16:15	1月20日(月) 15:00～16:15	1月23日(木) 15:00～16:15	1月27日(月) 15:00～16:15	1月20日(月) 15:00～16:15
メインテーマ	「つなごう 子どもの育ち～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をみすえて～」							
サブテーマ	つなごう子どもの育ち	コミュニケーション力を高めるには	自己紹介・情報交換・今年度の取り組み課題	幼保小の生活の中で友だちとつながる力		もっとつなごう 幼保小 一人一人に寄り添って～自分で考えて行動する子どもを育てる手立てを交流しよう～		
会場	とねやまこども園	桜井谷小学校	克明かがやき	大池小学校	豊中みどり幼稚園	東豊台小学校	西丘小学校	北丘小学校
司会	螢池こども園	桜井谷東小学校	克明小学校	聖ミカエル保育園	野畑小学校	東豊台小学校	西丘小学校	北丘小学校
記録	アトリオとねやまこども園 刀根山こころ保育園	みどりっこ保育園	箕輪小学校	上野小学校	のばたけ保育園	東豊台小学校	南丘小学校	北丘小学校
発表校園		箕面自由学園小学校 のばたけこども園	かがやきの報告			全校園所		
認定こども園	認定こども園ぷっこう幼稚園 幼保連携型認定こども園 神童幼稚園 認定こども園 螢池文化幼稚園、アトリオとねやまこども園 とねやまこども園 螢池こども園	幼保連携型認定こども園 神童幼稚園 のばたけこども園 桜井谷こども園 認定こども園 豊中みどり幼稚園	幼保連携型認定こども園 豊中愛光幼稚園 認定こども園 螢池文化幼稚園 認定こども園ぷっこう幼稚園 とねやまこども園 豊中人権まちづくりセンターこども園	幼保連携型認定こども園 神童幼稚園 のばたけこども園 本町こども園 あけぼのほんぽここども園	認定こども園 豊中みどり幼稚園 のばたけこども園 北緑丘こども園	ゆたかこども園 東豊中こども園 幼保連携型認定こども園 白鳩チルドレンセンター南丘	認定こども園 せんりひじり幼稚園・ひじりにじいろ保育園 しんでんこども園 西丘こども園 東丘こども園 幼保連携型認定こども園 白鳩チルドレンセンター南丘 幼保連携型認定こども園 追手門学院幼稚園 幼保連携型認定こども園 北丘聖愛園 アトリオみなみおかこども園 あけぼのドロップス	認定こども園 せんりひじり幼稚園・ひじりにじいろ保育園 幼保連携型認定こども園 北丘聖愛園 しんでんこども園 東丘こども園
幼稚園		緑ヶ丘幼稚園 春日荘聖マリア幼稚園 豊中文化幼稚園 箕面自由学園幼稚園	超光寺幼稚園	梅花幼稚園 宮山幼稚園 豊中文化幼稚園 緑ケ丘幼稚園 東豊中幼稚園	春日荘聖マリア幼稚園 緑ヶ丘幼稚園 箕面自由学園幼稚園	東豊中幼稚園	みくま幼稚園 アソカ幼稚園 東豊中幼稚園	アソカ幼稚園
保育所(園) 事業所内保育事業 小規模保育事業施設	刀根山こころ保育園 いずみ保育園 HOPPA螢池駅前	あけぼの風の森保育園 豊中みどりっこ保育園 あけぼのひだまり保育園 のどか保育園 羽鷹池ひだまり保育園	おかまち保育園 おひさま岡町保育園	聖ミカエル保育園 たまい保育所 とよなかぶんかナースリー そらのつばさ保育園 HOPPA少路駅前 とよなか文化さくらナースリー	のばたけ保育園 のばたけマミー保育園	よつば保育園 東泉丘ひだまり保育園 東豊中ひだまり保育園 トレジャーキッズ ひがしとよなか保育園	アスク上新田保育園 あい保育園千里中央 よつば保育園 ゆいゆい保育園	ちびっこ保育園スカイライフ
交流の実践事例	刀根山こころ保育園	桜井谷小学校	箕輪小学校	大池小学校	北緑丘小学校	東豊中幼稚園	新田南小学校	北丘小学校

令和元年度（2019年）豊中市幼保小連絡協議会　第２回連絡会実施一覧　No.2

小学校区	桜塚 南桜塚	熊野田 泉丘	中豊島 緑地 寺内	豊島 豊島西	豊島北 原田	小曽根 北条	庄内 野田 島田	庄内南 庄内西 千成	豊南 高川
開催日時	1月20日(月) 15:00～16:15	1月20日(月) 15:00～16:15	1月20日(月) 15:00～16:15	1月28日(火) 15:00～16:15 (14:00～保育参観可)	1月20日(月) 15:00～16:15	1月24日(金) 15:00～16:15	1月20日(月) 15:00～16:15	1月16日(木) 15:00～16:15	1月21日(火) 15:00～16:15
メインテーマ	「つなごう　子どもの育ち～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をみすえて～」								
サブテーマ	連携のあり方について		幼保と小の日頃の交流、子ども同士を繋げる具体的な取り組み						小学校1年生・卒園前の子どもの姿を「10の姿」の視点で見つめあおう
会場	南桜塚小学校	泉丘小学校 コミュニティルーム	寺内小学校	てしま保育園	てしまこども園	高川こども園	島田小学校	せんなりこども園	豊南小学校
司会	南桜塚小学校	泉丘小学校	寺内小学校	豊島西小学校	超光寺幼稚園	北条小学校	島田小学校	庄内南小学校	豊南西こども園
記録	南桜塚小学校	泉丘小学校	豊中あけぼのこども園	にっこりことぶき園	ひかり保育園	小曽根小学校	島田小学校	庄内南小学校	高川小学校
発表校園		各施設より						庄内西小学校 庄本幼稚園	豊南小学校・(高川小学校)・各こども園・幼稚園
認定こども園	てらうちこども園 認定こども園 あけぼの幼稚園 東邦幼稚園	熊野田幼稚園 ゆたかこども園 旭丘こども園	幼保連携型認定こども園 豊中ほづみ保育園 認定こども園 あけぼの幼稚園 豊中あけぼのこども園 てしまこども園 てらうちこども園 服部こども園	認定こども園 穂積幼稚園 てしまこども園 てしま保育園	認定こども園 穂積幼稚園 てしまこども園 原田こども園	小曽根こども園 高川こども園 てらうちこども園	幼保連携型認定こども園 庄内こどもの杜幼稚園 野田こども園 島田こども園 くりのみ幼稚園	栄町こども園 庄内西こども園 庄内こども園 せんなりこども園 幼保連携型認定こども園 庄内こどもの杜	幼保連携型認定こども園 ほうなん子ども園 豊南西こども園 高川こども園
幼稚園	豊中幼稚園 曽根幼稚園	東豊中幼稚園	服部幼稚園 曽根幼稚園 服部みどり幼稚園	こうづしま幼稚園	超光寺幼稚園 曽根幼稚園 こうづしま幼稚園	小曽根幼稚園 服部みどり幼稚園	こうづしま幼稚園	庄本幼稚園	ラ・サンテ幼稚園 大阪音楽大学 付属音楽幼稚園
保育所(園) 事業所内保育事業 小規模保育事業施設	とうほう保育所 さくらづか保育園 ゆたか保育園 豊中ひだまり保育園 中桜塚ひだまり保育園 HOPPA北桜塚	くまのだ保育園 おひさま保育園 旭丘かいせい保育園 あい保育園西泉丘	あけぼのぶんぶん ゆたか保育園 ひかり保育園 あい保育園寺内 ほづみ絵本の森保育園	にっこりことぶき園 トレジャーキッズ ふれあい緑地保育園 夢の島保育園 ほづみパブー保育園	ひかり保育園 おひさま岡町保育園 アスク曽根南保育園 トレジャーキッズ ふれあい緑地公園		わかば保育園 くりのみ保育園		
児童発達支援センター				児童発達支援センター					
交流の実践事例	南桜塚小学校	熊野田小学校	緑地小学校	こうづしま幼稚園	ひかり保育園	小曽根小学校	野田こども園	庄内西小学校	豊南小学校

蛍池・刀根山小学校区

【参加人数】小学校(7)名 こども園(12)名 幼稚園(0)名 保育所(園)(4)名 児童発達支援センター(0)名
小規模保育事業施設（0）名　事業所内保育事業施設（0）名

１、　基調とした発表

テーマ「つなげよう　子どもの育ち
～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をみすえて～」を元に各施設の子どもの様子、第一回目（６月）から子どもの姿がどう変化したか話し合う。

２、　話し合った内容

〇以前に比べて話が聞けるようになった。保育者や教諭だけでなく、友だち同士での話も出来るようになりトラブルが減ってきたように思う。

〇今までは先生が考えていた事を行っていた。それが自分たちで考え、自分たちで進めていける力が付いたと思う。

幼稚園、保育園、こども園では床生活や板書をする機会がないので、学校に入ったときに難しいのではないか。また小学校でも視覚機能が低いのではと感じる事もある。そのためビジョントレーニングを行い、目の運動をしている。

〇机・椅子に４５分座っていることが難しい。それは子どもの体幹も関係している。

〇行事などを通して一人ひとり自信がついてきたように思う。

〇園、学校の違いによる混乱が見られる

〇園に和式トイレがないところが増えてきて、学校に行ったときに出来ない子が多い。
体を支える、バランスをとるなど体にとっても良いことなので、公園など練習が出来る所があれば使用していく。

〇保護者の生活リズムに合わせる子どもが多い。子どもの生活リズムが大切。

〇低学年でもスマートフォンを持っている子がいるので、使用について指導していかないといけない。

３、　今後の課題・まとめ

〇幼・保・こども園の年長については、まず相手の話が聞けること、小学校とのギャップを少しでも減らせるように、各施設で取り組む。（板書の練習・椅子での生活・相手の話を聞く・自分の話を伝えるなど）

〇連絡会や引継ぎ、交流などで連携を取り合って、子どもの姿を見守り、つなげていきたいと思う。

桜井谷・桜井谷東・箕面自由学園小学校区

【参加人数】小学校(11)名 こども園(8)名 幼稚園(6)名 保育所(園)(8)名 児童発達支援センター(0)名
小規模保育事業施設（0）名　事業所内保育事業施設（0）名

1、　基調とした発表

テーマ

「つなげよう　子どもの育ち～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をみすえて～」

＊実践発表

〈幼保連携型認定こども園〉　　豊中市立のばたけこども園　5歳児

「自分の役割に誇りと自信を持とう！
～活動的な遊び、“おにごっこ”の取り組みを通して～」

①年度当初の様子

4月の遊び

ふれあい遊びや簡単なルールのある遊び、追う追われる遊びを取り入れる。

気になる子どもの姿

年長になり、活動的な、遊びを取り入れる。その中に、友だちと楽しく笑い合う姿が少ないAとBがいる。

クラス替えをして、緊張しているのか、気持ちをうまく伝えることや、自分がだせないでいる。遊びの中で、ハンカチ落としをした時に、ハンカチがなかなか自分たちのところにこないので、保育者が声をかけると「つまらない。」と小さな声で言う。自分の気持ちを、上手く表現できないので、聞いてくれる人がいれば、自分をだせる。

保育者は、友だちの繋がりや、喜びを感じて欲しいと考え、アドバイザー研修や、話し合いをしていく。その中で、追う追われるごっこ遊びを取り入れる。

保育者とA、Bで、「さめがきた！」「かいじゅうがきた！」等、単純な追いかけっこを周りを巻き込みながらしていく。

②鬼ごっこのおもしろさとは？

乳児期・・・ふれあい遊びから、「まてまて」と追いかけれ、つかまえてもらう楽しさ。
「つもり」のごっこ遊びの中で、追う追われるたのしさ。

3歳児・・・「つもり」のごっこ遊びを楽しみながら、鬼ごっこのルールを少しずつ意識し楽しむ。

4歳児・・・簡単なルールの鬼ごっこを楽しみながら、つかまえる！にげきる！
（個々の競争意識の芽生え）

5歳児・・・復活鬼ごっこ（集団としての競争意識・作戦の共有・役割分担）

復活鬼ごっこは、難しいので、げんキッズで教えてもらった、王さま鬼ごっこを取り入れ

る。
③鬼ごっこを通して（具体的な子どもの姿）
王さま鬼ごっこ・・・2チームに分かれる、各チームに分かれる。各チーム王さまを決める。（相手チームには、内緒）タッチしてジャンケンをする。負けたら石になって座る。王さまは、石になった友だちの背中をタッチして復活させる。残った人数の多い方が勝ちはじめに、3チームに分かれて、2チームが鬼ごっこをし、1チームは、見ていくことからはじめる。見ているチームは、友だちの姿を見たり、繰り返したりすることによる気づきがうまれる。
鬼ごっこをする中で王さまのふりをしたり、王さまを守るためにカモフラージュしたり、自分のチームがバレないように子どもたち同士で考える。鬼ごっこをする中で、Bが王さまのふりをして、タッチする姿がみられた。カモフラージュかな？本当は、Bも王さまがしたい？やりたいと言えなかった？と保育者で話す。
王さま鬼ごっこをする中で、A、B だけでなく一人ひとりがやりたい気持ちが言えているか？王さまだけでなく、他の役割りをする中で、A、B だけでなく一人ひとりがやりたい気持ちが言えているか？王さまだけでなく、他の役割りの大切さを知ってもらいたいという思いから、みんなの憧れの王さまを聞くなどをして、立場をかえ、役割の大切さに気づくことで、自分の役割に誇りと、自信を持てるように話し合う。
作戦の内容にも変化がでてくる。自分が大切にされているという安心感から、AもBもチームの中でやりたいことを声にだす。自分の思いが通らないと、悔しがる。あきらめないで言いつづける姿にかわってきた。
王さま鬼ごっこをするときは、チームで円陣を組んで気合いをいれたり、作戦タイムで、「王さまは、誰にする？」「大きな声を出して、助けてもらおう。」と、言い合ったりする姿も見られるようになってきた。鬼ごっこ中は、「私が、王さまです。」と、カモフラージュしたり、王さまの名前を呼ぶと、バレテしまうので、「たすけて！」と、大きな声で言ったりして、チームで話し合ったことを、伝え合いながら楽しんでいる様子が見られるようになってきた。

④これからの展開と振り返りの中で
新ルール、王さまを助けることができる、大臣役をくわえる。役を追加することで、より複雑になり、A、B も一緒になりながら、子どもたちどうしで考え、話をしながら、気持ちを伝え合えるようになってきた。わからなくても、わかるところで楽しんだり、どのチームが何人残ったかなと、数えるようになったり、王さま鬼ごっこを通して、A、B の姿や、一緒に過ごしている子どもたちの姿、声が変わってきた。自分の役割に、自信を持ち、気持ちをうまく伝えられない子どもたちには、一日の終わりに、気持ちのカードを取り入れて、安心感や伝わる喜び、そこから、うまれる表情が、子どもの誇りと自信に変わってきている。

実践発表

＜箕面自由学園小学校＞『つなげよう　子どもの育ち　１年を通してのコミュニケーション力を育む活動』

教科活動におけるコミュニケーション力を育む取り組み
１時間の授業の中での約束事として２回以上は発言（発表）をすること
【発表する（伝える）側】
声の大きさ、目線、姿勢
【発表を聴く（受け取る）側】
傾聴（相手の話を最後まで聴く、体の向きや目線を合わせる、共感を示して聞く）
※各教科学習の中で、協働、話し合いを意識しながら授業展開をしている

①１学期の活動＜コミュニケーションの再構築期間～コミュニケーションを深める活動へ＞
　私学は、異なる複数の園から入学する子どもが多く、初めてのお友だち・環境からスタートします。4 月は、緊張状態にありなかなかコミュニケーションをとれない子がいるため、異学年（特に 6 年生）との関わりを持つようにし、積極的にコミュニケーションを促している。5 月に入ると、学齢が近い 2 年生との関わりを深め、少しずつ学校に慣れ、新しい環境で固まった心を耕していく取り組みをしている。（再構築期間）また、6 月に運動会を行ったり、異学年での宿泊体験を行ったりして、児童間のつながりを深めるようにしている。（深める活動）

②2 学期の活動＜コミュニケーションを深めつつ自分から発信できる活動へ＞
　1 学期に育んだつながりを深めつつ、自由研究発表会や英語教育の一環として行うレシテーション大会を通して、自分から発信できる活動を取り入れている。また、親子交流会を通して、保護者の方や企業の方とのかかわりも持つようにしている。

③幼稚園との連携＜振り返る活動＞
　1 学期には七タイベント、2 学期はミニ運動会・制作展への参加、3 学期は小学校体験をおこなうなど、園児と触れ合う機会を多く取り入れている（学期に 1 回以上）。自分自身が園児だった頃、小学生からどんなことを言われて嬉しかったのか、緊張がほぐれたのかなどを考えることも目的にしている。（振り返る活動）

④中学校・高等学校との連携＜先を見る活動＞
　中学生や高校生が職業体験に来て学校生活を児童と一緒に過ごしたり、授業（英語）で交流を深めたりするなど年間 3 回以上の交流を行っている。また、課外活動（チアリーディング）でのつながりも深めている。

⑤海外姉妹校との連携＜世界に発信する活動＞

英語の授業の中で、オンライン通話による交流を行ったり、夏休みを利用した海外研修も積極的に行い、英語でのコミュニケーションだけではなく、日本文化を世界に発信する活動も大切にしている。

●今回の活動を通して

同学年だけではなく、異学年での活動の中で周囲から自分自身が認められ、自信につながり、自ら考えたことや感じたことを相手へ伝えることができるようになってきた。

英語学習を通して、他言語でのコミュニケーションができるようになってきた。

教科学習や体験活動から、しっかり話を聴いて（傾聴）、自分の考えを伝えることができるようになってきた。

●今後の課題

変わりゆく社会の中、子どもたちの取り巻く環境も大きく変化してくる。そのような中、小学校での体験を深めつつ、子どもたちの力を伸ばす取り組みを創造しなければならない。

２、　話し合った内容

「コミュニケーションをつけたいところは、どこか？」

・ペア学習や、グループ学習で、コミュニケーションをはかる。
・１学期は、何かあれば先生を頼っていたが、クラスでの話し合いを重ねていき、３学期になれば、自分たちで話していける力がついてきた。
・パワーの強い子どもではなく、弱めな子どもたちのグループでの話し合いの機会を作りつながりを強めたり、意見を言えるようにしたい。
・本音を言えないまま、家に帰って、保護者に伝え、話が違う事になり、保護者からの苦情がきてしまう。
・保育者が、間に入っていき、深くほりさげていく。「ごめんね。」「いいよ。」「もうしないでね。」をいつの間にか学び、そこを保育者は、もっと掘り下げたい。
・気持ちカードを使うことで、表現することが苦手な子どもの気持ちを知ることができ、何がしてほしいかが、伝わりやすくなる。

３、　今後の課題・まとめ

納得し合える場作りや、自分を出せる力を作っていきたい。そのためには、乳幼児期からの自己肯定感が大切となってくる。友だちとのコミュニケーションや、保育者、職員とのコミュニケーション、家庭との関わりも大切にしていきたい。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をみすえて、コミュニケーション力を高めることを考えたい。

克明・箕輪小学校校区

【参加人数】小学校（５名)、子ども園（４名)、幼稚園（３名)、保育所（園）（５名)
児童発達支援センター（０名）

1、基調とした発表

《克明小学校》

・系統立てた人権総合学習の取り組みについて

→１年生は主に学校で働く人、自分の名前、「ぽかぽかお仕事」について取り組んだ。

→互いを認め合う仲間づくりに加えて、いろいろな家庭状況におかれている子ども一人ひとりが自分は大切な存在であると気づくことができるように取り組んでいる。３学期は主に来年の１年生を迎える準備として学校のことをつたえるカルタづくりや花を育てる学習を行っている。

《箕輪小学校》

・学校のめざす子ども像と学年で大切にしてきたこと

→ルールを定着させるために学習の姿勢を徹底させる。そして一人ひとりの個性を認め合うために自分の気持ちを言葉で伝えることと、人の思いをわかろうとすることを意識してきた。

・図工と算数の実践の紹介

→未経験のことに対しても挑戦する気持ちを大切にしている。なぜその答えになったのか、考え方を話す授業づくりを行ってきた。

2、話し合った内容

・児童養護施設の子どもたちの様子について交流。学校や園が子どもたちにとって安心できる場所になるように、サポートを行っていく。行事によっては、自分の生い立ちと向き合う機会があるが、子どもの成長につながるためにどうすればよいかを考え、取り組んでいきたい。

・保育園と保育園同士で交流した事例の紹介。子ども同士の繋がりや、地域について意識できる良い機会になったので、今後も交流の輪を積極的に広げていきたい。

・小学校の授業について。担任の先生や教科の先生についての紹介。

・小学校の生活科の様子について。畑でさつまいもを育てて、６年生や保護者と一緒に調理をした。

3、今後の課題・まとめ

・幼保小でつながって子どもたちを育てていくことの大切さを再認識した。今後、園と園、学校と園で気軽に交流できる機会を増やしていきたい。

・子どもの教育や状況について密に情報を共有することが子どもの成長につながるので、卒園した後も個別に相談したり、様子を伝え合ったりしていく。

大池・少路・上野小学校区

【参加人数】小学校(14)名 こども園(6)名 幼稚園(7)名 保育所(園)(3)名 児童発達支援センター(　)名
小規模保育事業施設（　）名　事業所内保育事業施設（　）名

メインテーマ
「つなごう　子どもの育ち」　幼児期の終わりまでに育ってほしい力を見据えて
サブテーマ
幼保小の生活の中で友だちとつながる力

1、　話し合った内容（小学校区に分かれてテーマについてグループ交流、全体交流）

少路小校区

・基本的な生活習慣（席に着く、あいさつをするなど）が身についている子が増えている。
・よく遊ぶ子は、よく気付き、伝えることができると感じる。小学校の学習につながっている。
＜課題＞
・保護者と子どもの距離感が近い。
保護者同伴で登校する子どもが離れる時に泣いてしまう。
教職員が子どもに問いかけても保護者が先にこたえてしまう。
・聞く力が弱い。

上野小校区

・幼稚園の実践が小学校につながっていると感じた。
（子どもたち同士で思いを伝えられるような働きかけ）
・1日の予定を示すなど、見通しを持たせることが大切である。⇒安心できる。
・幼稚園・保育所（園）・こども園は、小学校での実際の学校生活に対するイメージが持ちにくい。小学校の様子を見る機会を持てたらよいなと感じる。
⇒実際に見て雰囲気をつかむことで、より交流を深めることができるのではないか。

大池小校区

・子どもたち同士で考える活動を多く取り入れている。⇒子どもたち同士をつなぐ。
・何年も一緒に過ごすことが多いため、短所に目が行きがちになる。よいことを褒め合っていく活動を多く取り入れている。
・分からないことを「分からない」ということによって、お互いに交流が生まれる。
・時間の感覚を育てる。

2、　今後の課題・まとめ

保護者と子どもの距離感が近いことが気になる。子どもをどのように育てていくかだけでなく、“親育て”についても考えていかなければならないのでは。

野畑・北緑丘小学校区

【参加人数】小学校(6)名 こども園(3)名 幼稚園(4)名 保育所(園)(5)名 児童発達支援センター(0)名
小規模保育事業施設（0）名　事業所内保育事業施設（0）名

１、　基調とした発表

前回話し合ったテーマ「つなげよう子供の育ち　～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をみすえて～」の内容をふまえて、各園での取り組みの報告

２、　話し合った内容

のばたけこども園

体作りをテーマに、５歳児は集団でのあそび“鬼ごっこ（王様鬼ごっこ）”を中心に取り組んできた。タッチされたら氷鬼になり王様だけが助けることができる鬼ごっこの遊びで、初めは王様だけがヒーロー的な存在だったが、王様を守る等子どもたちで役割やアイデアがどんどん出来てきた。鬼ごっこ（遊びの中での経験）を通して何が育てられるか。常に子どもの話し合いを大事にしている。

北緑丘こども園

体作りをテーマに取り組んできた。例えば“とび箱”の活動をするときに、出来ること（とび箱をとぶこと）だけにとらわれず、とび箱をとぶためにはいろんな動きがありそれをひとつひとつ分解して考えていくことでやり方を学んでいる。また、ミュージックケアや、なわとびを一人でとぶだけでなくみんなで５分間の活動として取り入れて、みんなで一体感を感じられるような活動も取り組んできた。

緑ヶ丘幼稚園

話し合いを基盤に、子供の声を拾うことを大切に春から過ごしている。お泊り保育や運動会のリレーの活動等を通して、大人はできるだけ見守り、子どもたち自身が気づく機会や、自分で自分のことを伝えられる機会をつくるようにしてきた。

認定こども園豊中みどり幼稚園

“世界”をテーマに取り組んできた。多国籍の友だち、目の色、紙の色の違い、国の違い、食べ物、服等違うことがたくさんあることに子どもたちが気づいていった。また、子どもたちが掘り下げられる活動として子どもたちが疑問に思ったことをすぐにおとなが答えるのではなく、“家で調べてきて”と返すようにした。園では、スマホ環境以外に図鑑や写真などを用意して子どもたちが自分で調べることで、テーマにしていた“世界”について興味をもっていった。いろいろな行事を通して年長児としての自信や自覚、年少児へのやさしさが育っている。

のばたけマミー保育園

０～２歳児の保育園で、３月に２歳児７名が卒園する。７名のうち４名が初めての集団生活だったが、初めての楽しい社会生活となれるように担任との関係づくりを大切に過ごしてきた。大人は見守ることで、自分がしたいこと、やりたいこと、いやなこと、やりたくないこと等主体性をもって過ごし表現できる環境作りを大切にしている。

箕面自由学園幼稚園

話し合いを大切にしている。運動会では例年ダンス（おどり）をしているが、今年は子どもたちが考える部分も一部取り入れるようにした。作品展も話し合いの姿が増えてきた。自分の意見や気持ちが言い出しにくい子が小学校で埋もれてしまわないように残り２カ月、サポートしていきたい。

のばたけ保育園

運動会では、和太鼓・組体操・リレー等いろいろな取り組みをしている中、個人差があるが、苦手なことはあるけど難しいからできないではなく、ちょっと友だちとやってみよう、前向きに挑戦してみようの気持ちが育ってきている。その他、作品展や生活発表会等いろいろな活動を経験する中で、一人一人がやらされているのではなく、みんなで作り上げる達成感を感じてほしいと取り組んでいる。

ー以上、そんな各園の思いで上がっていく小学校。就学前の話を聞いて、小学校ではどんな取り組みをしているのか。—

野畑小学校

１年生では、各園で育ってきた子を４月に受け取るが、１学期はいろいろな園からやってきてばらばらの姿のスタート。お互いの名前を憶えての１学期。今年は、体作りが研究授業で取り組んできた。外で遊ぶことは好きだが、4・5月は一人で遊んで楽しんでいる。しかし、そうではなくて“一緒に遊ぶ楽しさ”を経験してほしい。友だちと一緒に遊ぶことで、体も作り、楽しさも感じてほしい。運動会後、鬼ごっこを全体で行った。泣く子、ぶつかる子等大変だったが、毎週飽きることなくやっている。休み時間でも自分たちでルールを決めてやっている。自分たちで考えた遊びは、勝手にルールを変える子がいたり、入れてくれない等トラブルが起こる。嫌な気持ちになる子がでてくる。その度に話し合いをしている。子どもたちには、常に“考えて”と問うている。また、朝の時間にいない子がていて、意図的に名前を言うことで教室にいないことが当たり前にならないようにしている。友だちとのつながりを、一年間いろんなことをやりながら取り組んできている。

北緑丘小学校

１年生の一学期は規律をおしえることでいっぱいだが他学年との交流、存在が大きい。１年生は６年生の授業をみて感じたり、２年生のクラスに入ったりもする。しんどいこともいっぱいあるが、上級生から楽しいことも教わりながら育っている。掃除も６年生が一緒に行って教えてくれる。２年生は凄く褒めてくれる。１学期の終わりころには、自分たちも”勉強がしたい！“と言い出すようになってくる。自信を持たせる活動として、グループの中で“先生役”を作ることで自分たちでやろうとする姿や、“あんなかっこいい２年生になるんや“という気持ちがが育ってきている。

３、　今後の課題・まとめ

○小学校の体験入学（交流会）の確認、調整

○小学校の入学説明会で、外国籍の保護者の方で言語面で園で通訳を必要としている保護者に対しては、どのような対応があるか、質問があったときに答えるために。（園）→（小学校）入学後は学校から通訳を頼んでいるが、入学前については必要であれば在籍園での手配（申請）対応で調整をしてください。

○今後も、小学校入学時のスムーズな移行ができるように子どもたちの育ちや状況について情報共有をしていくことで子ども一人一人の育ちを支えていく。

東豊中・東豊台・東泉丘小学校区

【参加人数】小学校（１５）名 こども園（４）名 幼稚園（６）名 保育所(園)（１）名 児童発達支援センター（　）名　小規模保育事業施設（　）名　事業所内保育事業施設（　）名

１、　基調とした発表

「幼少期の絵本との出会いを豊かに　　自ら考えて行動する児童の育成について」

絵本は、テキストとイラストレーションで様々な情報を伝達する表現媒体である。

絵本には、色々な種類があり、読み聞かせの時は、読み聞かせるのではなく、子どもと「読み合う」という気持ちを大切に読むべきである。

絵本をただ読み聞かせるだけでなく、絵本の読み聞かせから遊びへつなげるなど、読み聞かせから発展させた取り組みも、子どもたちが生き生きと活動できる。また、教材として、絵本を活用することもできる。例えば、『しりとりしましょ』で、歌いながらしりとりをする実践では、子どもが大いにしりとり遊びをたのしむことができた。

絵本は、奥深いが、読み手が伝えたい気持ちを大切に読み聞かせを行うのがよい。そして、幼いうちから、子どもが絵本を手に取る環境作りが大切である。

２、　話し合った内容

ビブリオバトル体験

各校が用意した絵本をそれぞれが紹介

３、　今後の課題・まとめ

幼保小では、幼保での子どもの見立てを、小学校がしっかり受け止め情報共有することが必要である。

南丘・新田・新田南・西丘小学校区

【参加人数】小学校(20)名 こども園(5)名 幼稚園(13)名 保育所(園)(9)名　　合計 47 人

≪第１部≫

１．グループ討議

第１回目の時に交流した、地域や子どもの良さや課題を踏まえ、今回は「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」から特に取り組んだことの実践事例と子ども達の様子の交流をする。

Aグループ **協同性**→大人は介入せず子どもたちのやりたい気持ちを大事にして１人ずつ深く関わりを持ちことばを大切にし、自分の気持ちを言うだけでなく友だちの話も大切に聴く、そんな取り組みが協同性につながる。

Bグループ **自立心　ことばによる伝え合い　協同性**

→こまったことを自分のことばで伝えられるように、また友だちどうしで進めていけるように見守る取り組みが大切である。

Cグループ **ことばでの伝え合い**（小学校）→授業の始めに声かけの習慣をつけたり、相手の話を聴く姿勢を意識させて、聴く話す取り組みを深めたり、子どもどうしでは、上手く伝えられず手が出てしまうときは、周りの友だちや大人が一緒に話して気持ちを伝えたりしている。

自立心（幼稚園）→毎朝、自分のことを発表する機会を取り入れたり、自分が頑張ったことを自分で報告したりする中で、友だちの良いところをみんなが探そうとする雰囲気がでてきた。

協同性（幼稚園）→縦割りで過ごすことを取り入れ、例えばキャンプの具材や、製作展で作るものなど自分たちで意見を出し合って決めていき、さらにトラブルなども自分たちでおりあいをつけていけるように見守る。

Dグループ **ことばによる伝え合いから、聴く力**→まずは自分の気持ちを主張する、それを聞いてもらうことを大切にしている。まだ橋渡しは必要だが仲介する子どもも出てきて、小学校との接続のためにも必要である。

Eグループ **自立心(幼稚園)**→自分のことは自分で行うようにし、行事や生活を通して縦割りクラスで年長がリーダーをつとめ、子どもたちが主体で考え、進めていけるような取り組みをすすめている。

ことばによる伝え合い（小学校）→友だちの良かったことを発表し合ったり、勉強を教え合ったりしている。

Fグループ **自立心**→発表するのが苦手だったり、はじめてすることが不安だったりして自信がないので、周りの子を育て、発表の時の型や、失敗してもいい発表しやすい雰囲気を作る。

ことばによる伝え合い→手が出たり泣いてしまう子どもたちに、落ち着いて話ができる環境を整えたり、大人が話し方を提示したりしている。

２．今後の取り組みや課題

前年度にも重点課題でよく出ていた「ことばによる伝え合い」が、今回も多くのグループで出されていた。ことばで上手く伝えられない子どもの気持ちをどのようにくんでいくか、また、園では周りの環境にも慣れて自分の気持ちが伝えられるようになった子どもが小学校に入学したとき、園と同じように行動できるかと言えばそれは難しい。今後も続けて取り組んでいきたい課題である。次年度も、自己肯定感を大切にしながら、保幼小で「育ってほしい１０の姿」のイメージを共有し、日々の実践を積み上げる必要がある。

≪第２部≫

各園所と４小学校で、個別に、新１年生についての引き継ぎ会議。

東丘・北丘小学校区

【参加人数】小学校（7）名 こども園（5）名 幼稚園（3）名 保育所(園)（5）名 児童発達支援センター（0）名
小規模保育事業施設（0）名　事業所内保育事業施設（0）名

1、　基調とした考え

「保護者支援をどう進めてきたか一寄り添う・促す・変容一」を課題としてグループによるワークショップ形式で討議し、全体で交流した。

「こどもたちにつけてほしい力について、園所校が計画し実践するとき、ハードルとなるのが保護者の思い(価値観)である。保護者の思いをほぐすことに着目し、各園所校でどんな手立てを考え実践してきたのか、その効果について共有することで、本校区における連続した保護者支援をめざしたい。園所校と家庭との共通の価値観の下、こどもたちの育成に双方向から迫りたい。」を課題設定の根拠とした。新学習指導要領におけるスタートカリキュラムを効果的にすすめるために、保護者と教育・保育者が同方向を向いてこどもたちと接することが肝要であると考えた。

2、　話し合った内容

実際の保護者像は？

・こどもの様子について密な連絡を求める傾向が強い。・世間体を気にする傾向が強い。
・「ちがい」を排除する傾向がある・認知学力の向上に関心が高い。・習い事などが影響しているのか、親子のコミュニケーションが少ないように感じる。・子離れできていない傾向がある。・懇談会等で活動の意義を問う。

どうあってほしいか

・長いスパンでこどもの成長・姿を受けとめてほしい。・遊びの中でこどもが育つことを認識してほしい。・保護者自身の自尊感情を育ててほしい。・できるできないだけでなく、こどもが頑張っていることを認めてほしい。・我が子のことを知ってほしい。・こどもとの関わりを増やしてほしい。

どんな手立てを講じたか

・保護者懇談会などを活用し不安なことなどを話し合える場を設定。・〇〇プロジェクトや便り・掲示物等でこどもの活動を伝え、園所校の価値観を知ってもらう。・学級通信を頻回に出す。・行事や遊びの様子をドキュメンテーションで写真・ポートフォリオ等を活用し伝えることで、保護者が安心できるよう努めている。・園所校でのこどもの様子について、プラス面のみならずマイナス部分についても、次につなげるための準備として受け止めるよう保護者に促している。・こどものいきいきした姿を保護者に伝える工夫をしている。

3、　今後の課題・まとめ

・見えていること(結果)だけではなく見えにくいがんばりも認めていく、それを丁寧に伝えることで、個々のこどもの育ちを共有できるのではないか。・今行っていることがどんな力を育てることにつながるのかについて、見通しを含めて情報発信することが肝要である。・保護者の不安解消のために情報を発信することや、園所校になんでも相談できるという安心感の醸成により、園所校での学びのプロセスを円滑に進めることができる。

桜塚・南桜塚小学校区

【参加人数】小学校(9)名 こども園(5)名 幼稚園(10)名 保育所(園)(3)名

1、 基調とした発表

① 『幼保小の連携の在り方について～現状と課題～』

② 『幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿』

各園・各校を４グループに分け、①か②のテーマを選んで話し合った。付箋に各自の思いや考えを書き、その後、模造紙にまとめて発表し交流し合った。

2、 話し合った内容

① について

○園だよりや学校だより、各園所・各校のカリキュラムを交換し、まずは、お互いを「知る」ことが大切である。また、立場が違うと子どもの見方も変わるので、各園所・各校の教員で授業交換を行うことも、お互いを「知る」ということにつながるだろう。

○入学以降の児童の情報交換・共有が難しい。支援を要する児童についての情報は、入学前に全職員共有できるが、入学してから気になる児童も出てくる。要録にすべて記載することは難しいので、連絡会のように顔を合わせる機会があれば、話しやすく聞きやすい。

○行事や交流を通して、小学校の環境・様子などを知ることで、園児の小学校に対するハードルを下げ、安心感や期待感が与えられる。１年生も年下の園児と関わることで、気持ちや意識が育つ。何をねらいとして交流するのか明確にし、今後も続けていく。

② について

○１０の姿も大切にしながら、その中でも５領域を大切にしている。１０の姿を到達目標にするのではなく、子どもを見る視点・子どもをよりよく理解すること・保護者に伝える手段（懇談時に子どもの育ちを伝える）などに活用している。

○１０の姿は大切だが、個別に育ってほしい姿もある。一人ひとりの子どもの発達段階を踏まえ、同じ物差しで測ることなく子どもを理解することが大切である。

○小学校では、各園所でどこまで「１０の姿」ができて入学してくるか分からない。園所としても、入学の段階でできるようにしておくこと、力を入れて取り組まなければならないことが分からない。ある程度、情報として入っていたら、指導を考える上で、より有効に進められるのではないか。

3、 今後の課題・まとめ

校種は異なっても、子どもたちのよりよい成長を願う気もちは同じである。情報提供の仕方や個人情報の管理において課題はあるが、連絡会で話し合ったことが、この場で終わるのではなく、各学校・園所の全職員で情報を共有し、広げていくことが大切である。

熊野田・泉丘小学校区

【参加人数】小学校（14)名 こども園(4)名 幼稚園(10)名 保育所(園)(7)名 児童発達支援センター(0)名
小規模保育事業施設（0）名　事業所内保育事業施設（0）名

１、　基調とした発表

・気になる子（グレーゾーン）への関わり方やつなげ方について

園では、進級時から、日々の行動を少しずつ積み重ねてできるようになっていく。そうすることで、次に何をするのか、子どもの中で安心感が生まれて、できなかったことが、できるようになることが多い。

就学後に予想される生活の中で、園でもできることは、年長時から取り入れ、小学校に入って初めて体験することではなくなることで、就学後も安心して行動できるのではないだろうか。

・就学前につけたい力（生活の自立）※保護者の意識の変化

登園後、制服から着替えて、自分でたたむことをさせている。また、朝の持ち物の用意も、保護者のみがするのではなく、子ども自身が自分で用意の確認をしている。

友だち同士でトラブルが起きた時には、原因を聞き、かみ砕いて説明し、解決に導く手伝いをすることで、それが、子ども同士でできるようになってきている。大人が入るのではなく、子ども同士の話し合いができるようになった。

身の回りのことが自分でできるように、年長時１２月から上靴を履き、ポケットにハンカチ・ティッシュを身に着けるようにした。

２、　話し合った内容

入学後、靴が履けない、靴下が履けない、トイレに入る前に全部脱ぐ（男の子）、小学校のトイレが大きいなどで、困る場面があることもある。また、なかなか集中力が続かない。座っていられず、うろうろすることがある。

園のほうでは、トイレの指導は、脱がずにするということでしているので、今後も続けていきたい。座っていられないことについては、年長の段階で、４５分近く座って何かをさせるという活動は、なかなかさせられないし、そういった活動も予定はない。こども園でも、イスを出して座って話を聞いたり、何かの活動したりする時間を作っている。時間は短くても、座ることができたらほめるし、なぜ座らなくてはならないのか理由をしっかり伝えている。どうしても、興味のあるものが前にあると、立って前に行きたい子もいるが、その子を否定せず、存在を認め、認めていくことで、安心してまた座ることができる。そういった活動を積み重ねていきたい。

就学後は、就学前と違って、チャイムで動くことも多い。自由なことが自由にできる

時間が限られている。そういった時間に大人とゆっくり話をしたり、自分の想いを聞いてもらっていたりしている子が、小学校に入ってどのように生活していくのか心配なところではある。

３、　今後の課題・まとめ

就学前、就学後、それぞれ子どもの成長に合った指導や関わり方をする必要があるが、同じ活動を積み重ねることは、子どもの安心につながり、見通しを持って活動できることにもつながるので、今後も幼保小の連携は密に取っていきたい。特に、気になる子どもについては、初めての場面や環境により、不安感が生まれ、スムーズに活動のスタートが切れないということにもつながる。安心して学習に取り組めるようにするために、なにが連携できるのかを考えていかなくてはならない。

また、保護者の様子も変わりつつある。就学前から保護者とも連携を深め、ていねいに関係づくりをしていく必要があるだろう。

中豊島・緑地・寺内小学校区

【参加人数】小学校(16)名 こども園(8)名 幼稚園(7)名 保育所(園)(4)名 児童発達支援センター(0)名
小規模保育事業施設（0）名　事業所内保育事業施設（0）名

１、　基調とした発表

テーマ「子ども同士・職員同士がつながる取り組みについて」どんな活動をしているか、どのような交流をしているか等を基に、各校・各園の取り組みと実態を発表。

２、　話し合った内容（発表の内容）

＜小学校＞

寺内小学校：様々な園から集まってきた子ども達が出来るだけ早く馴染めるように、全員が授業に参加出来るように工夫をし、友達の意見を聞くことも必要だと伝えてきた。週１回あそび係あそびを決め、ルール等も子ども同士で考えて楽しめるようにしている。

緑地小学校：全盲の児童がいる。クラス単位ではなく学年単位でつながれるように、音楽を使って意識してきた。“仲間集めゲーム”で出来るだけ沢山の友達と話し相手のことを知る機会を作った。又、担任４人で授業をシャッフルし、学年の先生みんなで児童みんなを見ているという雰囲気作りをしてきた。

中豊島小学校：元々人のことが好きな学年で、クラスを超えてあそんでいる。又、友達の“良いところ探し”をしてきた。様々なことを自分たちで解決しようとする姿が増えた。

＜こども園＞

てらうちこども園：園庭で全学年を受け入れていて、一緒に過ごす時間がある。３～５歳児のグループを作り、月に１～２回集まってあそぶことで、縦のつながりを深めている。

服部こども園：ゲームのルールやあそび方を子ども同士で考えている。つくってあそぼう月間では子ども同士で関わり合い、教え合い、楽しんでいる。小学校へ向けて、同じ地域の子どもでグループを作っている。生活習慣の見直しを行っていて、大人が指示するのではなく、子ども同士で伝え合うように見守っている。

豊中ほづみこども園：他者に対する安心感が少なかったが、次第に友達の存在に気付き始めた。「ありがとう」と言ってもらえることで、自信や自己肯定感が持てるようになってきている。生活習慣の見直しでは、職員は出来るだけ見守り、子ども達が自分で気付けるようにしたり、友達に「助けて」と言うように伝えたりしてきた。

豊中あけぼのこども園：普段から子ども同士で話し合い、主体性を持って生活している。常に縦割りで過ごしている為、子ども同士のつながりは深く就学先への不安は少し軽減されている。

＜幼稚園＞

服部幼稚園：グループ活動では子ども同士で話し合ったり考えたりする機会となる。服部幼稚園フェスタでは子ども達からのアイデアを中心に取り組んだ。自由あそびでもグループであそぶ姿が増えてきて子ども同士でつながっていける力がついてきた。

曽根幼稚園：グループ活動を多くとるようにしている。分からない子どもへ教える機会を作っていて、うさぎの世話を通しても子ども同士で伝え合う姿が見られている。

服部みどり幼稚園：話し合いがしやすいと言われる４・５人でグループを編成している。運動会や発表会等を通して気持ちを合わせることや調整することも大切にしてきた。

＜保育園＞

あけぼのぶんぶん：個から集団へ移行の時期。“みんなで何かを一緒にする”という時間を大切にしている。あけぼの幼稚園へゆるやかに進級できるよう、週１回あそびに行っている。

あい保育園寺内：寝かしつけ当番、着替えのお手伝い等、年下の友達と関わる機会を作っている。縦割りのグループも作り、言葉遣い等も考えられるようになってきている。

３、　今後の課題・まとめ

テーマである“子ども同士のつながり”については、各校・各園での取り組みや実態が見えたが、“職員同士（幼保小）や各校・各園のつながり”については、今後意見交換を行い、深めていきたい。子ども達の就学に向けての段差が出来るだけなくなるような工夫をしていきたい。

＜今後の予定＞

2/6（木）10:00～11:00　緑地小学校で新一年生を迎える会

2/13（木）10:00～11:00　中豊島小学校で新一年生を迎える会

2/18（火）9:50～11:00　寺内小学校で新一年生を迎える会

2/20（木）時間未定　寺内小学校で子ども向け講演会　　講師：杉山 亮さん

豊島・豊島西小学校区

【参加人数】小学校(7)名 こども園(6)名 幼稚園(4)名 保育所(園)(6)名 児童発達支援センター(1)名
小規模保育事業施設（2）名　事業所内保育事業施設（0）名

1、　基調とした発表

昨年度の第２回幼保小連絡協議会で、各園所の発表を無くし、実際の子どもの話を中心として、幼保小の交流を深めていく事に決まりました。

2、　話し合った内容

豊島小学校と豊島西小学校の２グループに分かれて、グループ交流をしました。
各グループとも園所から小学校に行く子どもの人数と、就学児の気になる事を伝え合いました。

【豊島小学校グループ】

具体的に個人名で伝え、保護者同士のトラブルがあった事や、朝が苦手で登校が難しい子ども、支援が必要な子ども、トラブルの多い子どもへの配慮、給食のアレルギーや苦手な食べ物の事など、より詳しい話をしました。
また、小学校での給食の質問があり、
Q.苦手な食べ物が多い子どもはどうしていますか？
A.はじめは給食を均等に配分するが、食べ始める前に自分で苦手なものは減らすようにしています。自分で決めた量なので少しずつ食べられるようになってきています。
Q.給食の遅い子どももいるので、幼稚園では時間を決めて食べるようにしているが、小学校では時間になった時はどうしていますか？
A.自分ではじめに量を決められるようにしています。また、1年生の初めは他の学年より時間を長めに取っていて 40 分～45 分くらいの時間をかけており、今では 30 分くらいの時間になってきているという事でした。

【豊島西小学校グループ】

豊島グループと同じく個人名で伝え、配慮のいる子どもの事を話し合いました。
幼稚園から「幼児期にがんばって欲しい所は何ですか？」という質問がり、小学校の先生からは１学期はチャイムで動けない子どもが多くいたので自分で動けるようになって欲しいとの事でした。担任の先生の声かけ等で今は少し動けるようになってきているとの事でした。
→幼稚園の取り組みとしては、ピアノでチャイムのような音を鳴らしたり、「この時間からは〇〇をするよ。」と伝え、自分で片づけのタイミングを探し、片づけるようにしている。最初は間に合わなかったりしたが、少しずつ自分で片づけのタイミングなどを考えてできるようになってきているとの事でした。

3、　まとめ

各グループとも子どもたちや保護者の様子を事前に詳しく聞く事ができ、クラス分けの参考になってとても良かったです。

豊島北・原田小学校区

【参加人数】小学校(6)名 こども園(4)名　保育所(園)(5)名　　合計15名

1、　基調とした発表…各校・園所の子どもの様子を発表

原田小：けんかが多かったが、ひらがな等覚えて自分の気持ちを言えるようになり、相手の気持ちも受け止めながら解決出来るようになった。

原田こども園：作品展の中でお店屋さんごっこを行いグループで活動し、どんなものを作るか等話し合いを行う中で、自分の意見ばかりではなく友達の意見に合わせる姿も見られた。

トレジャーキッズふれあい緑地保育園：わがままが多く、トラブルも多かった。発表会に向けて、絵本から自分たちがしたいものを決めたり、道具等どのように作ったら良いか話し合って決めている。年下の友達の世話も出来るようになってきた。

おひさま岡町保育園：自分の意見に自信がなく、目線で保育士に訴えたりしていた。相手の話を聞くこと、自分で考えたことを言葉や身体で伝えることを大切にしてきた。

てしまこども園：子どもたちの話し合い活動を大切にしてきた。グループの名前を決めることでも自分の意見だけを言って終わりということが多かったが、回数を重ねるごとに一人一人が意見を言ってからそこからどうして決めていくかという話し合いができていた。トラブルになっても自分たちで解決できるように見守っていき、保育者の力を借りようとしていたのが、今は友達の話を聞き解決していく子もいた。

アスク曽根南保育園：0から2歳児施設。新しい環境(大きな園)へスムーズに入ることができるように環境を整えている。行事を通して、友達のやり取りを少しずつ覚えていっている。

ひかり保育園：友達の前で発表する環境を取り、文章で言えるように導いた。またグループ活動で話し合う場を多く設けた。話を聞くのに集中が途切れてしまう子や話を進める子があまりいなかったのが、集中も続くようになり様々な案を出してみんなで考えるようになった。

豊島北小：話す→友達のことを知るために今の気持ちを日直スピーチという形で、少人数の発表から大人数の前で発表するようにした。聞き方の「あいうえお」、聞く姿勢の「ぐーぺたぴん」と形から入るようにした。

2、　話し合った内容

聞く力も重要。人が話している時は静かにするという基礎のことが欠けていて、聞いていても内容が入っていなかったり、自分の意見だけ言い、聞く力が乏しい。→聞き方「あいうえお」等で形から入ることも大切。自分の意見、気持ちを伝える能力を高めていくとともに、聞く力も一緒に高めていく。

話し合いを多く取り入れているが、子どもたちで解決できなかった場合助けを求められた時、場の設定等どこまで援助してよいかが課題にあがった。

友達の気持ちを知るために絵本や気持ちカードを使って示し、コミュニケーションを取ることも必要と感じる。

小曽根・北条小学校区

【参加人数】小学校（9）名 こども園（5）名 幼稚園（5）名 保育所(園)（0）名 児童発達支援センター（0）名

１、　高川こども園年長児の保育参観を通して

〇年長児が、年下の子が寝るときにトントンしてあげたり、お昼寝の子を起こしてあげたりするなど、縦割りで異年齢の交流をしていた。
〇こども園でも幼児にたくさんの文字に触れさせていることに驚いた。
〇絵の下に子どもが言った言葉を書くなど、絵と文字を組み合わせて指導されていた。
〇話を集中して聞けるよう、様々工夫して取り組んでおられた。
〇小さいうちから生活のリズムができている。
〇教室環境に工夫があった。
〇作品を重ねてファイルし、子どもの成長がみられるようにしていた。

２、　話し合った内容

＜子ども園・幼稚園～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に向けて大切にしていること＞
〇友だちと協力しながら主体的に活動を進め、充実感を味わう。
〇途中であきらめず、我慢して到達目標をもって努力すること。
〇当番活動を通して他者を思いやれる。
〇グループ活動で意見を出し合い、自分たちで決定させることで主体性を育てる。
〇遊びの中で数量関係をつかませる。
〇困ったことを言うなど、自分の気持ちを自ら伝える。
〇時間の見通しを持つ。
〇園生活の中で小学校のルールに慣れさせる。
＜小学校の願い～就学前に身につけておいてほしい力＞
〇自ら進んで取り組むことができる。
〇自分の思いを伝えることができる。
〇絵本を通して平仮名への親しみを持つ。
〇しっかりとした体づくり。
〇紙をちぎったり、はさみを使ったり、曲線が書ける。
〇集団の中で話を聞けるなど集団での規律。

３、　今後の課題・まとめ

〇はじめてこども園で開催したが、幼児の具体の姿を通して交流を深めることができてよかった。
〇子ども園や幼稚園で積み上げてきたことを、小学校でいかに活かして、さらに育んでいけるか、交流を通して更なる情報・意見交流を重ねていく必要がある。
〇小学校生活に不安を持つ幼児の段差解消。

庄内・野田・島田小学校区

【参加人数】小学校（8）名 こども園（6）名 幼稚園（8）名 保育所(園)（2）名 児童発達支援センター（0）名
小規模保育事業施設（0）名　事業所内保育事業施設（0）名

1、　基調とした発表

◆2020. 1.20（月）　島田小学校の家庭科室にて、第２回幼保小連絡会を実施した。

◆第１回の連絡会で確認したように、一部と二部に分け、各校園所との討議と交流を行った。

一　部

〈グループ討議〉（約４０分）のグループ討議の後、グループから発表してもらい交流した。

テーマ：「１０の姿から見えてくる　就学前施設と小学校の共通点」

『つなげよう　子どもの育ち～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を見据えて～』のテーマを受け、5 月に配付されたサンプル資料の 10 の姿から見えてくる就学前施設と小学校の共通点に焦点をあてて、就学時前施設の年長に懸けた願いや取り組みを知り、小学校生活に引き継ぐこと、及び、子どもたちの育ちへの願い等を共通の視点に立ち、継続的にサポートできる連携を目指すために各園所の取り組みを日々共有しながら、年長の子どもたちと小学校一年生の接点や繋ぎを考えることが大切である。

二　部

〈気になる保護者や家庭に関わる引き継ぎ会〉

気になる子どもの家庭や保護者が少なくない校区である。小学校でも保護者や家庭との関係ができるまで、いつも手探り状態であるのが現状である。そこで、幼保小の連携を深めることで、子どもの背景を理解するとともに保護者の困り感に応えることのできる校区であるためにも、気になる保護者の共通認識、必要に応じての情報交換が大切である。

2、　話し合った内容

① 就学時前施設の年長に懸けた願い・・・こども園、幼稚園、保育所では、願いのキーワードとして「ことば（語彙数）」、「共同性」、「自立心」などが多く出た。

② 上記の願いを叶えるための教育実践・・・自分の気持ちを言える子どもを育てるための実践や自立心を育むための高齢者施設への訪問等の取り組みの紹介がこども園、幼稚園、保育所、小学校からなされた。

③ 保護者との連携の大切さと困難さ・・・園、所、小学校で抱えている保護者連携の課題を共有した。

3、　今後の課題・まとめ

●各こども園、幼稚園、保育所が子どもたちに身につけさせたい力は、根底では同じであるが、力の入れどころについては、子どもの実態に合わせて園・所でそれぞれに特色のあることを第一部の話し合いから感じた。幼保小連絡会の意義は、縦（幼・保と小）の校種間のつながりだけでなく、横（幼・保同士）のつながりの面でも大切であると感じた。

●目の前の子どもたちや家庭の厳しい状況を受け止め、保護者と関わる中で、今後も家庭との連携をケースバイケースで行い、情報共有、及び引継ぎを大切にしていくことを出席者全体で確認できた。

庄内南・庄内西・千成小学校区

【参加人数】小学校(8)名 こども園(12)名 幼稚園(1)名 保育所(園)(0)名 児童発達支援センター(0)名
小規模保育事業施設（0）名　事業所内保育事業施設（0）名

１、　当日の流れ　　１月１６日（木）１５：００～１６：１５　せんなりこども園にて開催
①【実践発表】　庄内西小学校　　庄本幼稚園
②【情報交換】　こども園や幼稚園の方が３つの小学校グループに分かれて行う

２、基調とした発表

①庄内西小学校「子どもたちに多様な学びを」

幼稚園やこども園でいろいろな体験を積み重ねてきた子どもたちに、学校という新たな場での生活を始める最初の一年とどう向き合わせるのか。一人ひとりの育ちを支えるための手立てを考えてきた。学校が子どもたちにとって安心して過ごす場であるために話してきたことがある。間違えることは誰にでもあるのだから、みんなで考える。大人だって間違えるときがあるのだから「ごめんなさい」をていねいに伝えよう。勉強はいくつになっても続くのだから知ることを楽しもう。一人ひとりのペースは違うのだから人と比べない。今後も日々の生活の中に学びはどこにでもあるので学びを楽しむ子どもたちでいてほしい。

②庄本幼稚園「つなごう子どもの育ち」　当園の取組～寺子屋教室～

プレ小学校教室としての学びの楽しさを知るために、年長児を対象にして行っている。参加自由で参加費無料である。ひとつの学年は数十名であるがほぼ全員参加している。毎週１回、保育終了後１５時から１６時頃までひらいており、年間計２５回である。内容は算数、国語を中心に、社会や理科、音楽、剣道など幅広く体験・学習している。小学校と同じ１時限４５分間、自分の席で先生の話を聞く訓練を行う。寺子屋教室での指導で大切にしたいことがいくつかある。学んだことをアウトプットすること。学ぶことの楽しさや学んだことを活かす力を感じること。言葉と、その言葉を伝えるということを大切にすること。言葉を単語ではなくて文章で言えるようになること。相手の目を見ながら丁寧に話をすること。先ず自分で考えてみる癖をつけること。何事も先ずあいさつからはじまる。取り組みの成果は、小学校進学後の卒園児の様子等も担任の先生と情報交換して、教室にフィードバックしていくことも検討していきたい。

３、今後の課題・まとめ

この３小学校は第七中学校とともに庄内の小中一貫校の南校として近い将来一つの学校として統合されることになっている。こども園も統合や募集停止が行われる予定である。幼児期の取り組みも含めて教育計画を考える場になってほしい。

豊南・高川小学校区

【参加人数】小学校(7)名 こども園(7)名 幼稚園(6)名

1、 基調とした発表

“小学校1年生・卒園前のこどもの姿を『10の姿』の視点で見つめあおう”という、サブテーマに即して、各校・園のとりくみを交流した。

2、 話し合った内容

		《育っていること（姿）》
こども園…	自分の思いを周りのみんなに伝えていく	⇔ことばによる伝え合い
	自分たちで遊びのルールなどの相談をする	⇔道徳性・規範意識 自立心・協同性
	興味のあるものを自分で調べる	⇔自然との関わり・生命尊重 思考力の芽生え
幼稚園……	時間を意識して行動	⇔自立心
	感じたことを表現する	⇔豊かな感性と表現
	自分たちでルールを決めて遊ぶ	⇔道徳性・規範意識 自立心・協同性
小学校……	係活動・当番・運動会の練習・遠足	⇔道徳性・規範意識 自立心・協同性
	自分の思いを伝える	⇔ことばによる伝え合い
	ふわふわことば・チクチクことば	道徳性・規範意識

3、今後の課題・まとめ

こども園・幼稚園で育ててもらってきた土台をもとにして、小学校では学習や運動・友だちとつながる力を育てているが、校区全体として家での大人とのかかわりが薄い子どもが多く、

・思いを言葉にして伝えることが苦手

・失敗を恐れて手が挙げられない（発表できない）・自信が持てない

というこども園・幼稚園・小学校の共通の課題が出された。

これらのことは、就学前の段階から自分の思いを伝える力や自己肯定感が十分育っていないことが原因と思われる。園や学校で、係活動や当番活動などを通して、大人や友だちから認めてもらえることで「自分は誰かの役に立っている」ことを意識させ、様々な体験をさせることで失敗を恐れずに様々なことにチャレンジしていけるように育てていく必要があることが話し合われた。

1年間を通して『10の姿』の視点で園や学校のとりくみを交流し合えたことで、子どもたちの抱える課題や教職員の悩みが共有し合えた。このことを次年度に生かしていきたい。